Canon キヤノンITソリューションズ株式会社

ニュースリリース

2009年8月31日
キヤノンITソリューションズ株式会社

低コストでの利用や運用が容易なゲートウェイ型電子メール暗号化製品の新バージョン「Voltage SecureMail Gateway V3.7」を2009年9月1日（火）から販売開始

キヤノンマーケティングジャパングループのキヤノンITソリューションズ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：武井尭）は、米国Voltage Security社の製品であるゲートウェイ型電子メール暗号化製品の新バージョン「Voltage SecureMail Gateway V3.7」を2009年9月1日（火）から販売開始します。

Voltage SecureMail Gatewayは、電子メールアドレスを公開鍵として使用する新しい暗号方式「IBE（Identity-Based Encryption）」を採用したゲートウェイ型の電子メール暗号化製品です。IBE方式では、従来のPKI（公開鍵基盤）のような大がかりなシステムを使用せずに、添付ファイルだけでなく本文を含めた電子メール全体の暗号化や電子署名といった、セキュアな電子メール環境を低コストかつ容易に実現できます。また、Voltage SecureMail Gatewayには、多数の相手と双方向の安全な電子メール通信を可能にするZero Download Messenger（ZDM）が搭載されています。これにより社外の受信者が専用のソフトウェアをインストールすることなく、Webブラウザーを利用して暗号化された電子メールを閲覧できます。さらに返信メールは自動的に暗号化されます。

今回発売された新バージョンでは、レポート機能の強化により、運用における利便性を改善したほか、アンチフィッシング機能を強化するなどセキュリティ面での改善も実施しています。

■「Voltage SecureMail Gateway V3.7」の主な新機能

1. レポート機能の強化
   出力できるレポートの種類が追加され、電子メール利用状況の分析がさらに容易になりました。
   ・日付、時間ごとのメール処理数
   ・ドメインごとのメール処理数
   ・送信者、受信者ごとのメール処理数、など
   なお、レポートはpdf、xls、pptなどでのダウンロードも可能です。
2. アンチフィッシング機能の強化（オプション）
   アンチフィッシング機能（Voltage SecureMail Anti-Phishing）を利用すると、電子メールの受信者は、暗号化された電子メールに貼り付けられているパーソナルイメージを確認することで、受け取った電子メールが正当なものであるか、もしくはフィッシングメールかどうかを見極めることができます。社内からゲートウェイ経由で送出される電子メールだけでなく、Zero Download Messenger（ZDM）で暗号化された電子メールにも、アンチフィッシング機能が有効となりました。
   ※ Voltage SecureMail Anti-Phishingはオプション製品です。ご利用には別途費用が必要です。
3. ブランドマネージャーの強化
   ブランドマネージャーを利用すると、高度なWebデザインの知識がなくても容易に画面のカスタマイズを行うことが可能です。ブランドマネージャーで行えるカスタマイズの範囲が強化され、より柔軟にZero Download Messenger（ZDM）画面の編集が行えるようになりました。

■ 販売情報
Voltage SecureMail Gateway V3.7 : 希望小売価格（税別） 90万円 （100ユーザー）～
Voltage SecureMail Anti-Phishing : 個別見積り

※ Voltage SecureMailは、Voltage Security Inc.の商標です。
※ VMwareは、VMware, Inc.の米国および各国での商標または登録商標です。
※ インテル、Pentiumは、米国Intel Corporationの登録商標です。
※ その他の製品名および社名などは各社の商標または登録商標です。

■ Voltage SecureMail Gatewayの主な特長

・ポリシーベースの暗号化
Voltage SecureMail Gatewayは、既存の電子メールシステムにサーバーを追加するだけで組織レベルの電子メールの暗号化システムを導入することが可能です。Voltage SecureMail Gatewayを通過した電子メールはポリシーに従って自動的に暗号化されます。社内ユーザーのPC環境やオペレーションを変更する必要はありません。

・Identity-Based Encryption（IBE）鍵の発行
Identity-Based Encryption（IBE）は、既存の暗号方式とは異なる、全く新しいアプローチで、暗号化の仕組みを簡単にしました。IBEでは、電子メールアドレスなど相手を特定できる情報を公開鍵（暗号鍵）として利用することが可能です。認証が通れば、IBE鍵発行サーバーがいつでも必要な時に秘密鍵（復号鍵）を自動で発行しますので、利用者やシステム管理者による鍵の生成や管理は不要です。

・Zero Download Messenger（ZDM）

暗号化された電子メールを受け取った社外ユーザーは専用のソフトウェアがなくても、Webブラウザーを利用して電子メールの復号、暗号化での返信を行うことができます。Webブラウザーを利用するので、OSやメールソフトなどに依存せず、さまざまな環境の相手と暗号化された電子メール通信が可能です。初めて電子メールを暗号化して送信する相手でも、事前の準備は必要なく、その日から安全に電子メールのやり取りが行えます。

・Voltage SecureMail Client（オプション）

Voltage SecureMail Clientを利用すると、メールソフト上で電子メールの暗号化・復号処理を行うことができます。復号したい電子メールをクリックするだけで、自動で復号し表示します。また、暗号化して送信する時は、「暗号送信」ボタンのクリックのみで容易に送信できるため、 今までとほとんど変わらない操作感で電子メールの暗号化・復号が可能です。

※ Voltage SecureMail Clientはオプション製品です。ご利用には別途費用が必要です。

・さまざまな認証方式に対応

暗号化された電子メールを復号するためのユーザー認証において、Voltage SecureMail Gatewayは、さまざまな認証方式と組み合わせ、利便性の向上やセキュリティの強化を図ることができます。電子メールによる認証でユーザーの事前登録が不要の「Email Answerbackアダプタ」、ユーザー自身でパスワードの登録・管理が行える「Enrollment Server」、既存のPOP3サーバー上のアカウントと連携する「POP3アダプタ」を標準で搭載しています。また、別途開発により、外部認証システムとの連携を図ることも可能です。

■ 動作環境

Voltage SecureMail Gatewayは、ソフトウェアアプライアンスです。OS（CentOS）を含めた必要なコンポーネントがすべて提供されます。また、Voltage SecureMail Gatewayは、VMware ESX環境での動作をサポートします。

製品には、ハードウェアおよびSSLサーバー証明書は含まれていません。

推奨環境

CPU	インテル Pentium 4 プロセッサー 2.8GHz × 2 以上
メモリ	2GB RAM 以上
HDD	36GB (15K RPM) × 2 - RAID1 以上
その他	CD-ROM、Ethernet Network Interface Card

必要なサーバースペックおよび台数は、暗号化する電子メールの通数により異なります。

Voltage SecureMail Gatewayの詳細については、http://canon-its.jp/product/vt/をご参照ください。

© Canon IT Solutions Inc.